

大学の公文書とは何なのか

[伊東 乾](#)

文書の真実性と無関係な「二階から目薬」

日本で考えるなら「これは東大の公式声明です」と称して、なぜか「日の丸」が上部中央に印刷されて、一泊二日が出てきたというのと同程度に荒唐無稽です。

またちなみに、この種の文書に付されるべきエンブレムは最低限「トート神」であって、大使館の普通箋に印刷された「**サラディンの鷲**」ではあり得ない。

つまり、ありとあらゆる「小道具」が拙劣で、このようなものは超短時間で日本の「小池選対」内で作られる以外、つまり秘書代わりに使われていた樋口高顕・都議会議員（当時）調整のもと、「日本時間」で作業し、ぎりぎりのタイミングでアップロードさせない限り、「郷原・黒木 記者会見」にぴったり間に合う、といったことはあり得ないわけです。

もしともにエジプト、カイロと連絡を取ったと考えれば、どうにも説明がつかません。

結論として、日本国内で、カイロはおろか国際的な大学実務と無関係な人がものすごい急ピッチで捏造した「日本語の作文」を流布した可能性が極めて高いことが、はっきり分かります。

ところが、です。

こんな具合で、大使館の普通の便箋にご丁寧にも「日本語」で書かれた「学長室」云々という作文が「大使館のフェイスブック」に掲載されると、このパチモンを「根拠」に、二階から目薬だか何だか知りませんが、**自民党上部から圧力がかかり、都議会自民党は青菜に塩状態**になった。

「情けない」の極みです。

物事の真贋と無関係な、アリバイにもなっていないフェイクで物事が押し切られてしまう。ことによるとエジプトよりひどい「後進国体質」。こっちの方が、はるかに根深い問題かもしれません。

これは同じ6月9日、なぜか「エジプト大使館」のフェイスブックに「カイロ大学の声明」として、[学長名義の文書](#)がアップロードされ、これを「根拠」に、[自民党の声の大きな代議士が抑え込み](#)にかかったと言われています。

上の「文書」リンクを見ていただければ分かる通り、なぜかこの「声明」は

- 1 「日本語」で書かれており、
- 2 学長の名もカタカナ、しかも**姓名が区切られていない拙劣なもので、**
- 3 **原語（アラビア語はおろか、英語ですらない）表記でないばかりでなく「サイン」**その他、文書の真実性を保証するありとあらゆるまともな証左を欠く代物。

ところが、これらの記事が出稿された2020年6月、なぜか「エジプト大使館のフェイスブック」に奇妙な作文が掲示されます。

すると、マンガのような展開なのですが、「二階から目薬」が効いたのか「都議会自民党」は決議案を取り下げ、莫大な広告の出稿元でもあるので、マスコミも追及の手をサッと緩めてしまった。

既報の詳細はご興味の方にご確認いただくとして、以下では「ありのままの現実」を直視するだけでも、分かってしまうポイントを指摘したいと思います。

そもそもどうして「国立カイロ大学」の声明が日本語で「エジプト大使館」の、しかも公式ホームページではなく「フェイスブック」に掲載されるのか？

これは、日本で言えば欧米にある日本大使館の「SNS」に、勝手に「東大の声明」が載っているのと同じくらいトンでもない事態です。

はっきり申しますが、過去25年来、東京大学で学術外交を担当してきた古手の教授職として断言します。仮に読み手が決まっている、普通のやり取りでもこんなメチャクチャはあり得ません。